

5月29日(土)

8:30-8:35 開会の挨拶

8:35-9:55 セッション1

がんゲノム医療の光と影
オーガナイザー：池田 貞勝（東京医科歯科大学）
座長：池田 貞勝（東京医科歯科大学） パネリスト：向井 洋介【予定】（大阪大学）、角南 久仁子（国立がん研究センター）、武藤 学（京都大学）、柴田 浩之【予定】（秋田大学）
2019年6月にがん遺伝子パネル検査が保険収載され、全国で実施されるようになったが、様々な課題に直面している。本セッションではがんゲノム医療の制度設計やがん遺伝子パネル検査開発に関わった専門家を招き、現在のがんゲノム医療中核拠点病院、がんゲノム医療連携病院の演者と共に、実臨床での課題についてディスカッションを行う。

10:00-10:30 企業セミナー（Live1）

10:35-11:55 セッション2

検体品質管理とがんゲノム検査 SOP
オーガナイザー：柳田 絵美衣（慶應義塾大学病院）、松岡 亮介（国際医療福祉大学）
座長：柿島 裕樹（国立がん研究センター） パネリスト：井上 博文（岡山大学）、赤羽 俊章（鹿児島大学）、柳田 絵美衣（慶應義塾大学病院）、藤澤 真一（北海道大学）
現在、がん遺伝子検査の対象は病理診断後のホルマリン固定パラフィン包埋切片（FFPE）とされているが、施設ごとに FFPE 作製条件が異なるため、核酸の品質が施設によって差が生じている。核酸の品質は、ゲノム解析結果に影響を及ぼす。また、遺伝子関連検査の工程・手技には多くの Pitfall が存在しており、偽陰性に誘導してしまう可能性もある。つまり、がん遺伝子検査を含む遺伝子関連検査や FFPE 作製に関わる病理検査には、精度管理が重要となる。このセッションでは、がん遺伝子検査に関わる「検体品質管理」と「遺伝子関連検査の Pitfall」、「遺伝子関連検査と病理検査における精度管理」について現場の臨床検査技師が紹介、ディスカッションする。

12:00-12:30 企業セミナー（Live2）

12:40-14:00 セッション3

日本生物資源産業利用協議会 CIBER 協賛
バイオバンク検体/データ利活用に向けて 1 標準化と臨床検査/バイオバンクのクロストーク

<p>オーガナイザー：中嶋 祥人（サーモフィッシャーサイエンティフィック（株））、岡野 和広（アジレント・テクノロジー（株））</p>
<p>座 長：服部 功太郎（国立精神神経医療センター）</p> <p>講演者：中江 裕樹（バイオ計測技術コンソーシアム/日本生物資源産業利用協議会）、西原 広史（慶應義塾大学）、池田 純子（バイオ計測技術コンソーシアム/日本生物資源産業利用協議会）、吉田 雅幸（東京医科歯科大学）</p>
<p>セッション3と4は、日本生物資源産業利用協議会 CIBER 協賛セッションとして、バイオバンク検体/データ利活用というテーマで議論を深めたい。本セッション3は、利活用促進するための標準化をテーマとして、国際標準の現状、がんゲノム医療での標準化動向、バイオバンクで働く人の知識の標準化活動、そしてバイオバンク利活用ハンドブックの紹介など、さまざまな側面から「利活用」について最新情報を提供する</p>

14:05-15:55 セッション4

<p>日本生物資源産業利用協議会 CIBER 協賛</p> <p>バイオバンク検体/データ利活用に向けて2 本当に利用したくなるバイオバンクを目指して</p>
<p>オーガナイザー：森田 瑞樹（岡山大学）、中嶋 祥人（サーモフィッシャーサイエンティフィック（株））、岡野 和広（アジレント・テクノロジー（株））</p>
<p>座 長：森田 瑞樹（岡山大学）</p> <p>講演者：森崎 隆幸（東京大学/バイオバンク・ジャパン）、森田 瑞樹（岡山大学）、安達 秀樹（日本製薬工業協会）</p>
<p>セッション3と4は、日本生物資源産業利用協議会 CIBER 協賛セッションとして、バイオバンク検体/データ利活用というテーマで議論を深めたい。本セッション4は、検体の利活用の現状をバイオバンク側と企業側の視点で最新情報を提供し、本当に利活用したくなるバイオバンクのあるべき姿を模索する。</p>

16:00-16:30 企業セミナー（Live3）

16:35-17:35 セッション5

<p>院内検査として行うがんゲノム検査の可能性</p>
<p>オーガナイザー：西原 広史（慶應義塾大学）</p>
<p>座 長：西原 広史（慶應義塾大学）</p> <p>講演者：四十物 絵理子（慶應義塾大学）、赤木 究（埼玉県立がんセンター）、谷本 昭英（鹿児島大学）</p>
<p>現在、がんゲノムプロファイリング検査は、指定された検査センターでの外注検査が主流である。しかし、欧米の High volume cancer center では、MSK-IMPACT のように、自前の検査室において、それぞれが開発した独自の遺伝子パネルを用いて院内検査として実施されている。こうした、いわゆる自家調製検査法（Laboratory Developed Test : LDT）は、日本においては明確に制度化されておらず、普及していない。このセッションでは、そうした先進的な取り組みを行っている施設から情報提供をしてもらい、今後の日本の医療においてこうした LDT を普及させるために何が必要かを議論したい。</p>

全ゲノム解析時代の precision oncology と遺伝情報の取扱い
オーガナイザー：豊岡 伸一（岡山大学）、平沢 晃（岡山大学）
座 長：豊岡 伸一（岡山大学）、平沢 晃（岡山大学） 講演者：吉田 輝彦（国立がん研究センター）、丸 祐一（鳥取大学）、横野 恵（早稲田大学）、 井本 逸勢（愛知県がんセンター）
我が国では経済財政運営と改革の基本方針 2019（骨太方針 2019:閣議決定）を踏まえ、令和 2 年度から開始する健康・医療戦略のもと、2019 年 10 月 23 日の第 1 回ゲノム医療協議会において、発がんの原因遺伝子特定に向けた全ゲノム解析を行うことが示され、今後の全ゲノム解析時代を見据えた対応が必要となってきた。ゲノム情報は当事者やその血縁者と医療者で共有することにより治療/予防に結びつけることが可能であり、2020 年 4 月から一部保険適応が開始した遺伝性乳癌卵巣癌症候群などでは遺伝学的検査、サーベイランス、リスク低減手術などで確実に臨床実地化がされている。本セッションでは、がん領域における全ゲノム解析・全エキソーム解析の動向と、遺伝情報の管理を含め、実地臨床・社会において検討すべき課題について検討を行う。

5月30日(日)

8:30-8:35 事務連絡

8:35-9:55 セッション7

RWDが作り出す次世代EBM：医療ビッグデータの活用
オーガナイザー：武藤 学（京都大学）、未定
座 長：武藤 学（京都大学）、未定 講演者：松本 繁巳（京都大学）、泉田 欣彦（埼玉医科大学）、田倉 智之（東京大学）
リアルワールドデータは、実臨床で起きているエビデンス（リアルワールドエビデンス）の構築に役立つとともに、患者ひとりひとりが自分自身のデータにアクセスすることで、自身の健康管理や副作用の管理、医療者とのコミュニケーションの向上に繋がると期待できる。本セッションでは、リアルワールドデータが今後の医療や臨床研究・治験にどのように役立つ可能性があるかを議論したい。

10:00-10:50 特別講演

Prof. Peter Paul Yu (Hartford HealthCare Cancer Institute)

※Dr. Yuは2015年のASCOの会長を務め、ニューヨーク市にあるMemorial Sloan Kettering (MSK) Cancer Centerにおいて開発されたがん遺伝子パネルMSK-IMPACTの実臨床にかかわってきた。がん遺伝子パネル検査の分野をリードしてきた一人である。今回は、本学会のために、米国内におけるがん遺伝子パネル検査の現状と費用対効果について、米国におけるLDTの考え方、臨床医への結果説明とその使い方、保険上の課題とともに概説し、今後の日本におけるがん遺伝子パネル検査の無理のないエコシステムの形成についてアドバイスをさせていただくことになった。I will be pleased to accept the invitation to speak on U.S. FDA and CMS policy regarding LDTs and the pattern of uptake by oncologists in the U.S. as well the challenges for clinicians in the interpretation and use of NGS tests.

10:55-12:35 セッション8

感染症検体の取り扱いについての国内外の動向
オーガナイザー：松下 一之（千葉大学）
座 長：松下 一之（千葉大学） 講演者：古田 耕（ISBER IPR DAL）、谷田部 恭（国立がん研究センター）、石井 良和（東邦大学）、鶴山 竜昭（北野病院/京都大学）、松下 一之（千葉大学）
HBVやHCV、HIVなどのウイルス感染症などの臨床検体保存は、凍結組織、剖検、血清、血漿、その他など様々な臨床検体が診療科の責任において各研究室に保存されている。指定感染症である新型コロナウイルスの臨床検体は、BSL2レベルの保存に限定するなどルールの策定が必要である。本シンポジウムでは、臨床検体の保存に関して、国内外から経験を有する5名の講演者に最近のトピックスを踏まえて発表をしていただきます。古田 耕先生（ISBER IPR DAL(アジア太平洋理事)、感染症検体取り扱いの国内外の動向、ISBER、ISO含む最近の動向）、谷田部 恭先生（国立がん研究センター、NCC バイオバンク及び6つのナショナルセンターにおける感

染症検体の取り扱い)、石井 良和先生(東邦大学医学部微生物感染症学講座、感染症と ISO について、TC212WG4 日本代表)、鶴山 竜昭先生(北野病院、ISBER の最新情報)、松下一之(千葉大学病院・新型コロナウイルスワクチンセンターにおける検体保存と臨床バイオバンク、および臨床検査と ISO、臨床研究など)がそれぞれ国内外の情報共有を行う予定です。ご参加の皆様の参考になれば幸いです。

12:35-12:45 閉会の挨拶